



—北アフリカ地域ニュース—

リビア：東部での抗議行動が首都トリポリに拡大

主席研究員 中島 勇

リビア東部で発生していた反政府デモは、2月20日、首都トリポリにも波及したようだ。ただ報道陣が現場におらず、他方で断片的情報・映像が多く、リビア情勢の全体像ははっきりしない。

2月20日、抗議行動が首都に及んだことを受け、カッザーフィ大佐の次男セイフ・アルイスラムが約40分間に及ぶテレビ演説を行った。同演説の中で、セイフは、リビアは内戦の瀬戸際にあるとし、軍はカッザーフィ大佐の統括下にあり、最後まで戦うと述べた。他方、サイフは、憲法制定に向けた国民対話を約束した。報道では、リビア政府は、インターネット接続を20日に遮断した。東部での衝突が増加した後、カッザーフィ大佐の動向は、2月18日にトリポリ市内で支持者のデモに合流した映像がテレビで報道されただけである。セイフは、20日に英国のヘイグ外相と電話会談している。（チュニジアでの政変の後、同人が理事長を務めるカッザーフィ国際慈善開発財団に近い新聞が、1月17日にリビア軍の予算の無駄を指摘していた。保守派の反発を受けた模様で、同財団は、2月15日に政治や人権問題での活動から手を引くと声明していた。）

リビアでの抗議行動や衝突は、2月15日から東部地域で活発化した。ベンガジでの衝突は、同市で96年に発生した刑務所暴動事件を扱っていた弁護士の拘束が発端だったようだ。東部での衝突は、その後も継続し、7都市に拡大したが、主要な衝突は東部地域に集中していた。東部地域は、歴史的に西部のトリポリへの対抗意識があり、またイスラム色も強く、これまでの治安機関と十人の衝突が発生している。20日時点で、ベンガジでの衝突・戦闘が継続しているようだ。反政府勢力がベンガジを制圧した、一部部隊が、反政府運動に合流したとの報道もある。

死者数については、2月20日時点で多い推定で250人、中間で174人、少な目の推定で84人と報道されている。東部での抗議動向の波が、首都トリポリに及んだことで、騒乱はリビア全体に拡大したことになる。